

■山下清 画家。養護施設での“ちぎり絵”で一躍有名になり、以後、放浪生活を送りながら独自の世界を創出した。

やましたきよし

水平社結成・1922＝ 東京の浅草に生れた。

関東大震災・1923＝ 1歳：関東大震災で焼け出された一家は、

護憲三派圧勝1924＝ 2歳：新潟市に移住した。

治安維持法・1925＝ 3歳：重い消化不良にかかり、後遺症がのこる。

円本時代始・1926＝ 4歳：再び、一家は東京に戻る。

共産党事件・1928＝ 6歳：小学校に入学。この頃から、絵を描くのが好きだった。

満州事変・1931＝ 9歳：

五一五事件・1932＝10歳：父が死去。この頃から、知的障害が目立ちはじめ、侮蔑や嘲笑に反発。

帝人疑獄事件1934＝12歳：母と母子ホームに入って、学校に通ったが、そこでも差別され、千葉県の養護施設(八幡学園)に入った。

芥川直木賞始1935＝13歳：学園が手工の一つに取り入れた“ちぎり紙細工”を始める。

日中戦争始・1937＝15歳：*これが“ちぎり絵”として発展、学園の子どもの展示が開かれ、清の絵は見る者を驚嘆させた。

第二次大戦始1939＝17歳：展示会は、さらに各地を巡回するようになり、

大政翼賛会・1940＝18歳：銀座での青樹展は異常な反響を呼んで、清の絵が論じられ、園児の作品集も版を重ね、一躍有名になる。

もはや凡作は無く、戦争画の大作もつくるなど、貼り絵画家として確固たるものになった。この年、風呂敷包一つを持って、突如として学園から姿を消し、長い放浪生活が始まった。徴兵忌避も一因。

日米開戦・1941＝19歳：

馬橋や我孫子をアルバイトなどで転々とし、

創価学会検挙1943＝21歳：飄然と母の家に姿を現し、徴兵検査を受けさせられたが、不合格。八幡学園に戻ったが、再び旅立った。

やはり、東京近郊を転々としていたが、

敗戦・1945＝23歳：

新憲法公布・1946＝24歳：発疹チフスにかかり、母の元に戻って入院したが、再び出発。以後、行動半径が急速に広がる。

新憲法施行・1947＝25歳：一時精神状態が不安定になり、精神病院に預けられたが、家に逃げ帰って、また旅立った。

極東裁判判決・1948＝26歳：切り詰めて貯めた金を警官に盗んだと疑われ、一時留置された。母が来て許されたが、農家に出された。

三大事件・1949＝27歳：*久しぶりに学園に戻り、一氣にちぎり絵として制作。傑作が多数生れた。

朝鮮戦争始・1950＝28歳：再び出た旅の途次、ちょっとした事件を起し、精神病院に入れられたが、脱出、学園にたどり着いた。

独立回復・1951＝29歳：東北から、九州までの大旅行に出る。

自衛隊発足・1954＝32歳：アメリカの{ライフ}の取材希望で捜索され、鹿児島にいるところを発見され、{東京タイムズ}に放浪日記が連載されるなど、再びジャーナリズムの脚光を浴びたが、またもや、旅に飛び出てしまった。

55年体制始・1955＝33歳：北海道に渡るが、駅を宿にできずに引き返し、母の元で両国の花火に感激、学園に戻って「花火」を制作。

国連加盟・1956＝34歳：*本人の意志と関係なく、「山下清作品集」が出版され、展示会が開催され、空前のヒットとなり、「放浪日記」はベストセラー、{週刊朝日}の夢声に登場し、ブームとなったが、超然としていた。

なべ底不況・1957＝35歳：彼をモデルにした映画「山下清」、

インサントラン・1958＝36歳：「裸の大将」が封切り。

安保闘争・1960＝38歳：初めて沖縄に行き、歓迎される。

タイタイ病始・1961＝39歳：横浜マリントワーの壁画「横浜の今昔」。ヨーロッパ旅行。

大学紛争始・1965＝43歳：この10年、彼をサポートしてきた式場隆三郎が死去。一本立ちを余儀なくされ、ライフワーク「清の東海道五十三次」に取り組みはじめたが、

美濃部都知事1967＝45歳：

全共闘ター・1969＝47歳：「山下清・一人だけの旅」。*高血圧による眼底出血を起して、中断せざるを得なくなり、

ト・ル・ヨック・1971＝49歳：脳出血で倒れ、没した。

「もう一つの旅」「山下清・東海道五十三次」「放浪一牢やから逃げたい」。